

第 21 回(2024 年度第 1 回)水素インフラ規格基準委員会 議事録

◇ 日 時：2024 年 8 月 22 日(木) 10:00～11:15

◇ 出席者（※は Web 参加）：

〔委員〕 門出委員長※、大塚副委員長※、遠藤委員※、近藤委員※、名取委員※、
藤本委員※、三浦委員※

〔オブザーバー(HySUT)〕 吉田様※

〔事務局(JPEC)〕 小出、河島※、今岸、小野、鈴木(記)

◇ 配付資料：

資料 24-01-00 第 21 回（2024 年度第 1 回）水素インフラ規格基準委員会議事次第

資料 24-01-01 水素インフラ規格基準委員会名簿

資料 24-01-02 水素インフラ規格基準委員会の位置付け及び議事概要

資料 24-01-03 具体的な審議内容

資料 24-01-04 圧縮水素充填技術基準（圧縮水素スタンド関係）JPEC-S 0003(2023)(追補案)

資料 24-01-05 追補表

資料 24-01-06 正誤表

資料 24-01-07 コメントシート

資料 24-01-08 コメントシート記入例

1. 開会

- ・事務局より、事前送付の資料確認を行った。
- ・委員紹介を兼ねて出欠状況を確認、9 名中 7 名出席により委員会が成立した。

2. 議事

(1) 水素インフラ規格基準委員会の位置付け及び今回の議事概要説明

資料 24-01-02 を用い、JPEC-S の位置づけ・制定プロセス、本委員会の審議事項概要等について説明した。

(2) 充填技術基準 JPEC-S 0003（2023）追補（案）の審議

資料 24-01-03 を用い、追補版発行の経緯、追補の具体的内容、本委員会での審議対象、充填関係基準分科会にて得られた意見及びその対応について説明した。

<主な質疑応答>

（委員）今回追加されるフローチャートや充填テーブルは具体的にどのような検証がされたのか、参考までにお聞きしたい。

(事務局) NEDO 事業の中で山梨の HySUT 施設等を活用し検証を行った。フローチャート等の記述内容については NEDO 参画の自動車メーカーの方で検証がなされている。

(委員長) ディスペンサーメーカーが追補内容を活用するにあたり、不都合な点はないか。例えば、ソフトウェアの開示が必要など。

(委員) ソフトウェアの開示等は非常に参考になるが、ディスペンサーにより仕様・環境は異なるため、そのまま活用するのは難しい。フローチャートや検証時のプログラム等の開示自体は助かるため、今後こういった部分については、自動車メーカーや関係者の方々に相談させていただければと思う。

(委員長) やはり独自のプログラム作成や制御装置の開発は大変と思われるため、普及に向け関係者協力の上、取組みいただきたい。

(委員) 此度の改正における適用対象にミドルフローや大型車両は含まれるか。

(事務局) MC-MM 方式に関して今回追補した内容は LDV 向けとなる。HDV を対象とした充填は現在別の NEDO 事業にて進められており、その検証結果を踏まえ改めて改正の見込み。なお、10kg 超の容器については、JPEC-S 0003(2016)より追加された附属書 I により、MC-MM 方式ではないが充填は可能。

(委員) 承知した。

(3) 審議、投票要領について

事務局より、資料 24-01-02 P.13、資料 24-01-07~08 を用いて、今後の審議の進め方及びコメント記載方法について説明し、9月5日(木)まで質問・意見を募集し、その内容により書面投票に移るか追加の審議を行うかを委員長に諮るものとした提案を行った。また、審議にあたっては資料 24-01-04~06 をあわせて参照いただきたい旨を補足した。

【追記】

コメント等募集(2024年8月22日~9月5日)に対し、以下の意見・質問が挙げられた。委員長と事務局で内容を精査し、修正要望を反映させた自主基準案をメールにて各委員に配付の上、書面審議投票を行うこととなった。

なお、書面投票の対象は、下記修正要望の反映版となる。

コメント内容及び対応

- ① 追補版とはいえ、できる限りフォーマットを統一しては。
⇒フォーマットの統一は次回改正時に順次実施予定。
- ② P.3 ディスペンサーの用語説明が JPEC-TD 0004(2023)と異なる。
⇒JPEC-TD 0004(2023)の内容をベースに修正する。
- ③ P.2~ 「3. 用語の定義」の各用語にナンバリングがされていない。
⇒次回改正時に検討する。

- ④ P.9 他 内容量 → 容量
⇒指摘の通り修正する。
- ⑤ P244 MC-Formula → MC フォーミュラ
⇒指摘の通り修正する。
- ⑥ P77～ 表方式の参照表では「充填不可」のセルには色付けされていないが、MC フォーミュラの参照表には色付けされている。
⇒充填不可として全て数値を記載しないと 4 点補間の計算ができない場合があるので、
後者は充填非推奨の領域を色付けで示している。
- ⑦ P.160 「充填不可」と「充填不可の数値」の違いが不明。
⇒両者の区分けは必要であるが、表現を再考する。
- ⑧ P.3 ディスペンサーの用語説明 燃料電池自動車 → 燃料電池自動車等
⇒指摘の通り修正する。

その他、事務局自主提案として以下を修正する。

- ・事業名称等を除き、充填 → 充填 に統一
- ・P.3 緊急離脱カプラー → 緊急離脱カップリング に統一

以上